

調査結果

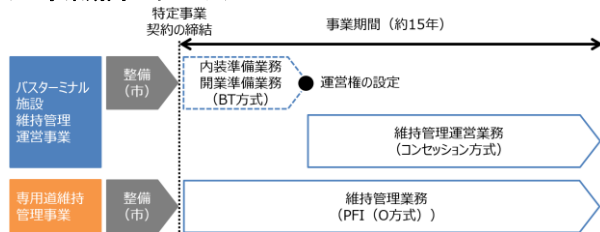
1. 事業スキームの具体化

- **バスターミナルの運営**: 特定車両停留施設としての位置づけを想定し、利用者からの停留料収入を基礎に、民間の創意工夫によるサービス向上やコスト削減を促す観点から、PFI(コンセッション方式)を適用する。
- **専用道**: 道路としての公共性や安全確保の観点から、所有・管理主体は市が保持した上で、日常の維持管理業務を民間が担うPFI(O方式)を適用する。
- **事業期間**: 専用道の完成後、バスターミナル施設の内装準備業務期間が並行していることから、**一体事業として終期をそろえるスキーム**とする。

＜施設区分と役割分担＞

| 施設区分 | 所有 | 整備 | 維持管理 | 運営 | 運営権の設定 |
|-----------|----|---------------------------------|-------------------------------------|----|--------|
| バスターミナル施設 | 市 | 市が別途発注(但し、内装整備は民間事業者がBT方式により整備) | 民間事業者がコンセッション(公共施設等運営権)方式により運営・維持管理 | | ○ |
| 専用道 | 市 | 市が別途発注 | 民間事業者がO方式により維持管理 | — | × |

＜PFI事業期間のイメージ＞



2. 事業収支の精査(VFM算定)

- インフラの維持管理・運営を停留料収入による独立採算とすることは難しいが、従来方式と比較した結果、**VFMは約8%見込む**ことができる。
- 民間事業者のノウハウの活用により、従来方式よりもPFI方式の停留料収入が増えれば、更なる財政負担額の軽減につながり、VFMはさらに高まる可能性はある。
- 民間事業者側では、投資の採算性の指標であるEIRRは**5%を超えて**おり、一定の採算性・収益性は確保できる。

3. リスク分担(案)の作成

- リスク分担(案)は、バスタコンセッション先行事例を参考としつつ、運営事業者の公募に着手している自治体や民間事業者へのヒアリングを行うことで作成した。

4. 民間サウンディング調査

(1) 調査対象

インフラ維持管理・運営事業者へ質問票(書面)意見聴取に加え、オンラインによる個別ヒアリングを実施。

(2) 調査結果まとめ

| 項目 | サウンディング結果概要 |
|-------|--|
| 事業方式 | ・バスターミナルはコンセッション方式、専用道はO方式とする案について、概ね理解が得られた。 |
| 事業期間 | ・「15年程度」を一つの目安として妥当。 ・一方、投資回収や運営体制の構築・改善の観点から、15年を上回る期間設定を望む意見もある。 |
| 費用負担 | ・停留料収入等のみで維持管理・運営費用を賄う独立採算の成立は難しい。 ・需要リスクの高さを踏まえた収入の安定化策(サービス購入料による混合型、公的負担の導入等)が必要である。 |
| リスク分担 | ・物価上昇リスク及び開業遅延リスクについて、契約上の整理を明確化し、事業者が負担可能な範囲と公的負担とする範囲を適切に設定する必要がある。 |
| 総括 | ・想定する事業スキームの方向性について一定の理解が得られた。一方で、停留料収入等のみでの独立採算成立は難しく、付帯事業の導入やサービス購入料の併用、公的負担の在り方等を含めた収入安定化策の検討が必要であるとの意見がある。 ・事業の新規性や関係者の多さを踏まえ、スケジュールに一定の余裕を持たせること、管理区分・所掌範囲やリスク分担を契約上明確化することが、民間事業者の参画を促進する上で重要である。 |

事業化に向けた今後の展望

本調査で検討した事業スキームをもとに、令和8年度は事業スキームの精緻化に加え、運行事業者特定に向けた一体化合意の手法検討を実施予定である。

